

# 美 をつくし

MIWOTSUKUSHI

vol.177

平成24年(2012)3月1日 発行



## 廬山図

しひめい かんげつ  
菴関月(1747-1797) 江戸時代(18世紀) 本館蔵[長田捨三郎氏寄贈]

古来、風光明媚な地として知られる中国の廬山を円形の画面に描く。直径127cmにもなる大幅で、墨の濃淡を巧みに用いてその雄大な景観が見事に表現されている。図中には、金泥で山川や建物などの名前も記されている。18世紀後半に大阪で活躍した菴関月の代表作である。



OSAKA CITY MUSEUM OF FINE ARTS

大阪市立美術館

特別展

草原の王朝 契丹  
2012年4月10日～6月10日

契丹[遼]は今からおよそ1100年前、遊牧系民族が中国北方の草原に樹立した広大な帝国です。唐の滅亡後、916年に国号を「契丹」と定め、遊牧と農耕を中心としながら諸民族と活発な交流を保ち、200年にわたって豊かな国家を形成しました。

ところが契丹は自国で編纂した歴史書や周辺国による関連史料も乏しいため、長らく草原に消えた「まぼろしの国」となっていました。

年月は遥かに過ぎ去り、1930年代、鳥居龍藏や京都大学調査隊により皇帝の陵墓がある慶陵の調査が行われました。近年は広く契丹の領域各地で学術調査が進められ、契丹王族の墓や仏教寺院遺跡などの新発見・発掘が相次ぎ、その繁栄と文化レベルの高さを具体的に示す品々が、長い眠りから覚めつつあります。

黄金のマスクや腕輪、銀の宝冠や靴。銀に玉石をあしらった馬具。シルクロードを経て運ばれた西方のガラス器、瑪瑙・トルコ石のネックレス。北宋よりもたらされた白磁器。今なお彩色をのこす壁画や板絵。さらには白大理石の仏像や銀の舍利塔など、それは1000年のタイムカプセルから取り出された、想像をはるかに越える豪華な美術作品でした。

本展では、黄金製装身具の発見で大きな話題となった陳国公主墓や、2003年に発掘された未盗掘墓・トルキ山古墓の出土作品、契丹を代表する仏教遺跡のひとつ慶州白塔の塔内納入品など、中国・内蒙古自治区で発見され、世界初公開を含む国家一級文物を中心とした貴重な作品約120件により、知られざる契丹の多彩な文化と美術をご紹介します。



1 石造釈迦如来坐像 中京古城出土 応暦7年(957) 内蒙古博物院蔵  
2 ガラス幾何学文瓶 陳国公主墓出土 開泰7年(1018) 内蒙古文物考古研究所蔵  
3 板絵近侍像 巴林右旗出土 10-11世紀 巴林右旗博物館蔵

特別展

沖縄復帰40周年記念  
紅型  
琉球王朝のいろとかたち  
9月11日～10月21日

国宝  
黄色地鳳凰蝙蝠尽青海波文様紅型絹袴衣裳  
18-19世紀 那覇市歴史博物館



北 斎  
—風景・美人・奇想—  
(仮称)

10月30日～12月9日

重要文化財 潮干狩図 葛飾北斎 江戸時代(19世紀)  
本館蔵(中島小一郎氏寄贈)



特別陳列

橋本コレクション中国書画  
2012年7月28日～9月2日

本館の阿部房次郎や京都国立博物館の上野理一のコレクションなどから一世代、新たに独自の慧眼で中国書画を収集したコレクターが現れました。その一人が橋本末吉(1902-1991)です。

橋本は大蔵省から実業界に入り、日本アルコール販売株式会社などの役員・社長を歴任しました。戦後の動乱期に桑名鉄城所蔵の中国明清書画に着目して、遺品を多数購求したことによりコレクションの骨格を形成し、以来、大阪高槻の自宅に800点余りにのぼる作品を蒐集しました。その範囲は明清両朝を網羅し、明では浙派や明末の奇想派の作品、清では康熙・乾隆年間の諸作品などに特色があり、それまであまり顧みられることのなかった来舶画人や近現代の書画にも及びます。これらは現在、渋谷区立松濤美術館に一括して寄託されています。

本展は地元大阪初の大規模公開で、その優品を一堂に里帰りさせます。同じ大阪で育まれたコレクションですが、阿部とは蒐集時期も嗜好も大きく異なります。「橋本コレクション」の展覧は、普段より「阿部コレクション」に親しんでいる観覧者にとって、中国書画の見方に新たな示唆を与えることとなりましょう。



1



2



3



4

- 1 呉彬 溪山絶塵図 明・万曆43年(1615)
- 2 重要文化財 石鋭 探花図巻(部分) 明・15世紀
- 3 許友 草書五言律詩 清・17世紀
- 4 沈銓 雪梅群兔図(部分) 清・康熙55年(1716)

特別陳列

酒と食のうつわ  
杯のなかの小さな世界(仮称)  
2013年1月10日～2月11日

魚貝蒔絵杯 江戸時代 18～19世紀  
本館蔵 (カザールコレクション)



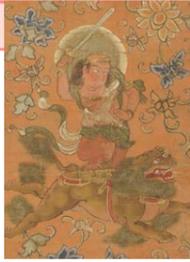
## 平常展

4月10日(火)～5月6日(日)

### 修法と曼荼羅

密教では、個人の願いを達成するために修法とよばれる祈禱が行われました。願の種類によって、祈りを捧げる仏も異なります。本展示ではさまざまな修法に用いられた仏教絵画を紹介しします。

●大威徳転法輪曼荼羅図  
南北朝時代 正平10年(1355)



4月10日(火)～5月6日(日)

### 永観堂禅林寺の襖絵と屏風

浄土宗西山禅林寺派の総本山・永観堂禅林寺(京都)には長谷川等伯(1539～1610)とその一門によるものなど多彩な障壁画、屏風が伝えています。当館に寄託されている襖絵、屏風の中から「秋草図」、「蓮池荷葉図」、「檜原図」・いは歌屏風」を紹介しします。

●秋草図(八面のうち・部分) 長谷川派  
桃山時代 16～17世紀 永観堂禅林寺蔵

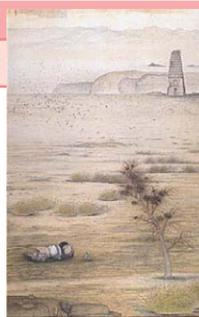


4月10日(火)～5月6日(日)

### 中国風景

日本絵画には、憧れの地であった中国の風景が多く描かれました。契丹展の開催に合わせて、日本の近世・近代絵画の中に見られる中国の景色や風俗を紹介しします。

●荒涼 矢野鉄山 昭和8年(1933)  
本館蔵 [矢野元一氏寄贈]



4月10日(火)～5月6日(日)

### 近世大坂の絵師たち

江戸時代の大坂では個性豊かな多くの絵師たちが活躍しました。当館に収蔵される作品の中から、林園苑や上田公長など大坂ゆかりの絵師たちが描いた作品を紹介しします。

●蟹子復讐之図 上田公長  
江戸時代 19世紀 本館蔵 [小菅長次郎氏寄贈]



4月24日(火)～6月10日(日)

### うるし — 蒔絵・螺鈿・根来・漆絵 —

寺院で用いられた朱漆塗の器(根来塗)ヨーロッパに輸出された南蛮蒔絵、大名婚礼調度、香合や印籠、小さなものから大きなものまで漆の器を一室に。

●国宝 菊唐草蒔絵螺鈿手箱  
南北朝時代 14世紀 熊野速玉大社



7月3日(火)～7月16日(月祝)、7月28日(土)～8月12日(日)

### 近代美術

昭和11年の開館からおおよそ75年、寄贈や購入を通じて美術館に集まった日本画と工芸と大阪の洋画家鍋井克之の挿絵、辻元コレクション富本憲吉作品などの近代工芸を展示しします。

●出潮 案本一洋 昭和18年(1943)  
本館蔵 [住友コレクション]



### 夏休み子ども企画 ビリケンさんが来たゾ!(予定)

7月28日(土)～9月2日(日)、9月11日(火)～10月14日(日)

### 中国彫刻

日本を代表する中国彫刻コレクションとして知られる山口コレクションを中心に、南北朝・北魏～唐時代(5-8世紀)の石造仏教・道教像を展示しします。

●石造 菩薩交脚像  
北魏 5世紀後半  
本館蔵 [山口コレクション]  
●石造 如来立像頭部 [河南省龍門石窟奉先寺洞窟]  
唐 8世紀前半 本館蔵 [小野コレクション]



9月11日(火)～12月9日(日)

### 日本工芸 — 金工・陶磁 —

田万コレクションの和鏡類、有田焼と京焼、田原コレクションの鍋島藩窯の染付・色絵など、日本の原始から近世までの陶磁器・金属器を中心に展示しします。

●重要文化財 青銅 松喰鶴文鏡  
平安時代 12世紀  
本館蔵 [田万コレクション]



9月11日(火)～10月14日(日)

### たっぷり見たい屏風絵

あてやかな極彩色の花鳥図から、静けさをたたえた墨絵の山水図まで、バラエティ豊かな中世・近世の屏風絵約20点を厳選し、その魅力をたっぷり紹介しします。

### 2012年度後半(9月～3月)の平常展(予定)

仏教美術	11月6日(火)～12月9日(日)
仏教美術・中国工芸	2013年1月10日(木)～2月11日(月・祝)
雛人形	2013年2月23日(土)～3月17日(日)
光琳資料	2013年2月23日(土)～3月17日(日)
根付	2013年2月23日(土)～3月17日(日)
描かれた女性たち	2013年2月23日(土)～3月17日(日)

## 蒔絵研究から見る光琳資料 — 「梅花蒔絵箱下絵」再考 —

一月七日から二月五日まで、特別陳列「光琳資料をひもとく」を開催し、昭和十八年に武藤金太氏からご寄贈をうけた当館所蔵と、京都国立博物館所蔵の小西家旧蔵尾光琳関係資料のなかから、光琳関係と雁金屋関係の文書、画稿や下絵、蒔絵下絵を陳列いたしました。

光琳の子寿市郎の養家である小西家に光琳に関する資料類が伝えられていることは酒井抱一(1761～1829)の時代から知られており、二百回忌にあたる大正四年(1915)前後からはこの資料を用いた研究が徐々にすすめられていました。そして昭和三十七年には『小西家旧蔵光琳関係資料とその研究』が山根有三氏によって上梓され、昭和五十三年には資料の大半が重要文化財に指定されました。

これらの資料は光琳の事歴、光琳画の研究の上では欠くことのできないものであり、また東福門院徳川和子の御用を勤めた光琳の生家、尾形家の家職である呉服商雁金屋関係の文書は染織史研究に積極的に用いられてきました。しかし多数含まれる蒔絵下絵と称される資料については、公開された図版が小さなモノクロ印刷であったこと、そして本館所蔵分以外の大抵が個人蔵であったことなどから、長らく研究がすすんでいませんでした。しかし近年光琳資料の蒔絵研究からのアプローチは内田篤呉氏によって端緒についたといえます。同氏と漆芸作家である室瀬和美氏の調査にご一緒させていただいたことから、光琳資料に関する蒔絵研究の重要性に改めて気づかされました。

当館に動めはじめた頃、所蔵品である「梅花蒔絵箱下絵」〈右図・260〉を調査し、裏面にある墨書を表側から漆でなぞったあと、表面に記された「此所よりおきめ二」の文字から、これが漆器制作において置目として使われたことを知りました。平成十四年に当館が京都国立博物館所蔵の光琳資料をお預かりすることとなり、「梅花蒔絵箱下絵」と同じ形状を持つ「竹蒔絵箱下絵」〈12-2〉、「草花蒔絵箱下絵」〈左図・12-3〉を比較する機会を得ました。この三点は一見よく似ているのですがそれぞれ異なる性格の資料とわかります。

置目(おきめ)とは「蒔絵の下絵を漆の面に転写する方法。美濃紙に描いた下絵の輪郭を、裏から胡粉などでなぞり、これを器面に押し当てて転写する。」と『大辞泉』にあります。胡粉のかわりに焼いた漆を用いることもあります。「梅花蒔絵箱下絵」に見られる赤褐色の線は漆による描線です。モノクロ図版を見

る限りでは三者は同じに見えたのですが、「草花蒔絵箱下絵」と「竹蒔絵箱下絵」は墨で描かれたもので、褐色の漆で引かれた線は見られません。三者の形状はよく似ています。四側面の模様は連続して繋がり、さらに模様は正面から立ち上がり、蓋表に連続することがわかります。

このうち「梅花蒔絵箱下絵」と「草花蒔絵箱下絵」とはほぼ同じ大きさです。試みにこれらを複写して組み立ててみると、「梅花蒔絵下絵」はほぼきっちりと箱形になり、「草花蒔絵箱下絵」も側面の紫陽花の花の先端の部分が蓋表にはみだすことをのぞくと、ほぼ箱形にくみ上げることができます。どちらも高さが三十六cm前後で小さな重箱ぐらいの大きさになります。これに比べると「竹蒔絵箱下絵」は高さが四十二cmと少し大ぶり、下絵をそのまま組み立てようとすると蓋表の周囲に比べて側面の幅が足りません。つまり完成した下絵として使うことができないのです。

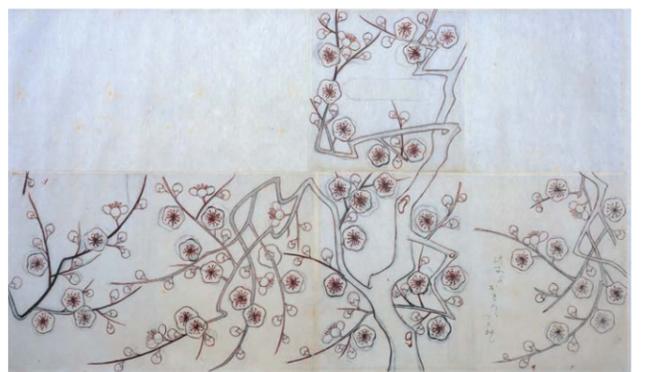
このことから下絵として作られ、一度は漆器を作るための置目として使用されたのは「梅花蒔絵箱下絵」のみであり、ほかの二点は完成された下絵ではないことがわかります。また「梅花蒔絵箱下絵」には、蓋表となる部分に提手金具を取り付ける位置、あるいは提手金具を通す穴を穿つ位置を示す薄い墨線が見えます。そのためこの箱は重箱や菓子箱、あるいはその被い蓋として作られたことが推測されます。

紙面の都合で今回とりあげることができたのは「梅花蒔絵箱下絵」を含む三点の箱下絵のみです。これらの三点も字数の制約により下絵としての性格の違いを述べたのみで、図様の特色についてはふれることができませんでした。小西家伝来光琳関係資料として伝わる下絵類は光琳か、光琳の周辺か、後世の人物が描いたものなのかの判別が困難です。また実際に光琳が蒔絵制作にどのように関与したかを示す決定的な証拠はそこにみいだせません。しかし資料に含まれる下絵、画稿類は、蒔絵研究の視点から見直すと、新たな発見がたくさんあります。今後も徐々に研究をすすめてご紹介できればと考えています。(土井久美子)

※文中〈〉内番号、大阪市立美術館分は収蔵番号、京都国立博物館分は至文堂日本の美術462「光琳芸術の基層」(狩野博幸著)で用いられている番号です。



●重要文化財 草花蒔絵箱下絵 京都国立博物館



●重要文化財 梅花蒔絵箱下絵 大阪市立美術館



## 平成23年度寄贈品

井筒の女 和氣史郎 1969年 1面 (8804)  
苔寺 (100号) 和氣史郎 1969年 1面 (8847) ほか  
(8803~8849以上 47件 前場百合野氏寄贈)

色絵 唐花文変形皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8850)  
色絵 菊花繁文変形皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8851)  
瑠璃錆袖金銀彩 草紙形皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8852)  
色絵薄瑠璃 唐花唐草文変形皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8853)  
色絵 牡丹文変形皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8856)  
色絵 芥子図木瓜形皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8857)  
色絵 菊花繁文皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8860)  
青磁染付色絵 瓢文皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8861)  
青磁染付 大根文皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8862)  
染付薄瑠璃 群鶴文皿 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1枚 (8867)  
色絵 毘沙門亀甲樹文皿 鍋島藩窯 江戸〔17末~18世紀〕1枚 (8870)  
色絵 桜花柴束文皿 鍋島藩窯 江戸〔17末~18世紀〕1枚 (8871)  
色絵 紅葉流水図皿 鍋島藩窯 江戸〔17末~18世紀〕1枚 (8873)  
色絵 松竹梅図皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8874)  
青磁色絵 山帰菜図緑皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8875)  
色絵 花唐草文向付 鍋島藩窯 江戸〔17世紀〕1口 (8919)  
青磁染付色絵 青海波梅樹図皿 鍋島藩窯 江戸〔17末~18世紀〕1枚 (8878)  
青磁染付 青海波宝尽文皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8868)  
青磁染付 紫陽花図皿 鍋島藩窯 江戸〔17末~18世紀〕1枚 (8879)  
青磁染付 山水図皿 鍋島藩窯 江戸〔17末~18世紀〕1枚 (8880)  
染付 梅樹図緑皿 鍋島藩窯 江戸〔17末~18世紀〕1枚 (8883)  
染付 雪景山水図皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8869)  
色絵金彩 梅樹図皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8929)  
染付 飛龍波涛図皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8932)  
染付 青海波若松文皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8930)  
染付 老松図皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8931)  
染付 雲居楓橋懸橋図皿 鍋島藩窯 江戸〔18世紀〕1枚 (8942)  
染付 牡丹折枝図皿 鍋島藩窯 江戸〔18末~19世紀〕1枚 (8940)  
染付 稗栗折枝図皿 鍋島藩窯 江戸〔18末~19世紀〕1枚 (8947)  
青磁 大根文皿 鍋島藩窯 江戸〔19世紀〕1枚 (8948) ほか  
(8850~8967以上 計118件 田原元子氏寄贈、田原コレクション)

木彫根付 武悪面 銘「口利」19世紀 一個 (8968)  
木彫根付 般若面 銘「口目」19世紀 一個 (8969)  
木彫彩色 技額面 銘「鉄哉(花押)」19世紀 一個 (8970)  
木彫彩色根付 舞楽 19世紀 一個 (8971)  
木彫根付 お多福面 19世紀 一個 (8972)  
根付 お多福面 19世紀 一個 (8973)  
陶器根付 能面 19世紀 一個 (8974)  
木彫根付 狸々 19世紀 一個 (8975)  
置物 舞楽 銘「哲」19世紀 一個 (8976)  
(以上9件 野村建夫氏寄贈)

青釉黒彩 水差 レイ窯 12世紀 一口 (8977)  
青釉黒彩 水差 レイ窯 12世紀 一口 (8978)  
(以上2件 高橋元子氏寄贈)

染付 草文皿 長崎県三河内焼 江戸末期~明治 一口 (8979)  
色絵 梅花文向付 佐賀県嬉野源六焼 明治 一口 (8980)  
染錦 花樹文蓋碗 佐賀県有田焼 江戸 二具 (8981)  
色絵 草花唐草文小鉢 佐賀県有田焼 江戸 一口 (8982)  
(以上4件 百浜正明氏寄贈)

石造 如来及脇侍立像 北魏 一基(8983)  
石造 双菩薩半跏像 北魏 一基(8984)  
(以上2件 卯里欣侍氏寄贈)

樹海を越えて 赤羽恒男 100号(8985)  
MOROCCO 赤羽恒男 60号(8986)  
(以上2件 赤羽恒太氏寄贈)

## 大阪市立美術館(天王寺公園内)

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82  
TEL.06-6771-4874 FAX06-6771-4856  
ホームページアドレス <http://www.osaka-art-museum.jp>



### ●特別陳列 観覧料

一般500円(団体400円)、高大生400円(団体300円)

### ●常設展(平常展) 観覧料(特集展示を含む)

一般300円(団体150円)、高大生200円(団体100円)

中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方は無料 団体料金は20名以上  
※特別展は別料金。特別展併設時は特別展観覧料で常設展もご覧いただけます。  
※平成24年より常設展は平常展という名称に変わります。

### ●休館日

月曜日(祝日の場合はその翌日)、展示替え期間、年末年始

### ●開館時間

午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで)

### ●交通

地下鉄御堂筋線、谷町線、JR「天王寺」駅、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅、阪堺軌道上町線「天王寺駅前」駅下車または市バス「あべの橋」停留所下車、北西へ約400m



大阪市立美術館だより、美をつくし Vol. 177 の内容に誤りがありました。  
お詫びして訂正いたします。

■修正箇所

P.1 左上に記載されている発行日

【正】平成 24 年(2012) 3 月 1 日 発行

【誤】平成 23 年(2012) 3 月 1 日 発行

P.6 展覧会スケジュール

【正】7 月 30 日(月)休館

【誤】7 月 30 日(月)が開館となっておりますが、休館の間違いです。

(グレーが休館日ですが白くなっておりました)

P.4 平常展「日本工芸—金工・陶磁—

【正】9 月 11 日(火)～10 月 14(日)

【誤】9 月 11 日(火)～12 月 9(日)